

TABLE OF CONTENTS


故障コード (DTC) の読み出し
故障コード (DTC) の表示
故障コード (DTC) の消去
ライブデータの表示
グラフの表示
カスタムライブデータ

このガイドはクイックリファレンス、つまり簡易版の取り扱い説明書です。
完全な取扱説明書は www.innova.com からダウンロードしてください。

故障コードの読み出し



DLC (データ・リンク・コネクタ) にコードリーダーを接続します。

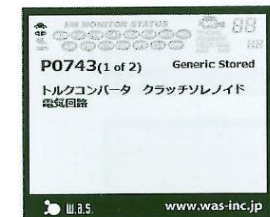
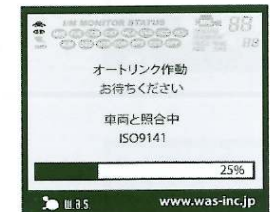
イグニッションスイッチを ON にしてください。
エンジンは始動しないでください。

メーカーを選択し、 ボタンを押してください。
コードリーダーが自動的に車両のコンピュータにリンクされます。

故障コードの表示

コードリーダーが記憶されているコード、フリーズフレームデータとシステムステータスを読み出します。
I/M ステータスは、LED インジケータで示されています。

複数の DTC が読み出された場合、必要に応じて、DTC ボタンを押してください。
フリーズフレームデータを表示させたい場合、FF ボタンを押してください。
DTC がない場合は『DTC なし』と表示されます。
故障コードの説明が長い場合、フリーズフレームデータを表示させた場合、必要に応じて   ボタンを使用してください



故障コードの消去

DLC(データ・リンク・コネクタ)にコードリーダーを接続します。


イグニッションスイッチを ON にしてください。
エンジンは始動しないでください。

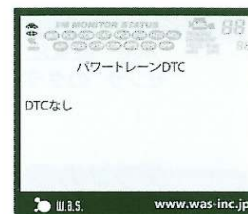
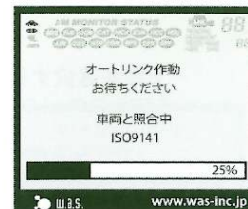
コードリーダーが自動的に車両のコンピュータにリンクされます。

ERASE ボタンを一回押してください。

画面のメッセージに従って作業を終了してください。

ライブデータの表示

コードリーダーを車両の DLC に接続し、エンジンスイッチを ON にします。メーカーを選択し、 ボタンを押してください。






まず DTC が表示されます。
DTC がない場合は『DTC なし』と表示されます。

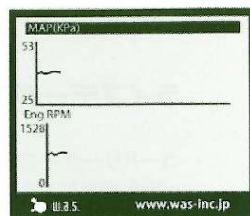


LV (ライブデータ) ボタンを押してください。
表示可能なライブデータのリストが表示されます。
“1/19”と表示されている場合、19種類のライブデータが表示できます。



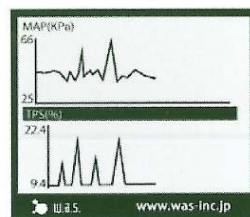
  ボタンでスクロールしてグラフ表示させたい項目、例えば吸気圧を選択して  ボタンを押してください。

上の段には“MAP (KPa)”吸気圧、下の段には“Eng RPM”エンジン回転数が表示されています。



他のライブデータの切り替えは ボタンで、自由に行えます。 で選択を決定します。

上段を選択すると下の段の選択に切り替わります。“TPS,スロットルポジションセンサ”に切り替えます。

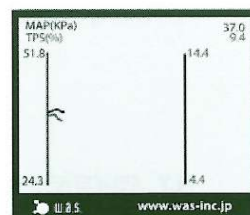


“Eng RPM”の表示を ボタンに切り替えていき、 ボタンを押します。

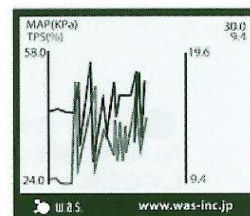
このように下段の表示が切り替わります。上の段が“MAP-吸気圧”、下の段が“TPS,スロットルポジションセンサ”のグラフです。

グラフの重合表示

もう一度 ボタンを押します。画面が重合表示状態(ふたつの画面を重ね合わせて表示する状態)に切り替わります。



黒のラインで表示されているのが“MAP-吸気圧”、赤のラインで表示されているのが“TPS,スロットルポジションセンサ”のグラフです。



カスタムライブデータ

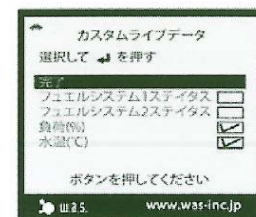
表示するライブデータを、自由に選択することができます。

M ボタンを押し、ライブデータメニューを表示させます。ライブデータメニューから、“カスタムライブデータ”を選択して、 ボタンを押します。



各項目ごとに チェックマークを付けたり、反対に消したりできます。チェックマークがある項目が、表示されます。

一通り選択が終わったら、最後の『完了』を選択して ボタンを押してください。



このように選択したライブデータのみが、表示されます。

